



相高に入って3カ月もたたないうちに「相高祭」がやってきました。何をやるのかと考え、友達に聞いたら、「歌を歌うらしい」と言われました。その瞬間、気持ちが高ぶってきました。何故なら、中学のときから、みんなで声を合わせて歌うのが好きだったからです。そのうえ、合唱があるのは1年生だけと聞いたので、余計に興奮しました。だから、みんなも僕と同じように頑張ってくれるかな、と思っていました。でも、「ちゃんとやろうぜ」という声を押しつけて、全然真面目にしてくれませんでした。このままだとクラスが割れる！と思ったとき、野球部3人が声掛けをしてくれました。でも、一部は合唱練習があるのに部活へ行ったり、しゃべってばかりで歌わなかったりと、僕はずっとイライラしていました。そんな中、本番がきて歌うことになりました。村住先生は「なかなかやったで」と言ってくれましたが、僕は納得がいきませんでした。

でも、2日目のバザーなどで、そのイライラやモヤモヤはすっかりしました。また、来年の相高祭を楽しみにしています。  
(1組 鷲澤 裕生)

相高祭を終えて、私が一番思い出に残ったことは、1-2全員でした合唱です。

相高祭の前から、みんなで案を出し合って自由曲を決めたり、放課後や休み時間を使って練習したりするうちに、みんなで頑張ろう！という気持ちが出てきて、クラスがより団結したように思います。最初は、音程や歌詞を覚えるのが大変だったけれど、全パートに出られると決まった時は、本番では最優秀賞を取りたいな、と思いました。本番は、2位で悔しい気持ちもあったけれど、全員で力を出し切れたと思うので、良かったです。指揮や伴奏で、クラスのために頑張ってくれた人たちにも感謝の気持ちでいっぱいです。また、1-2のみんなで合唱したいなと思いました。今回の相高祭の合唱は悔しかったけれど、他にも球技大会や体育大会もあるので、合唱の時のような団結力で、みんなで力を合わせて頑張りたいです。良い相高祭になりました。

(2組 竹田 有香)

高校に入ってから文化祭は、期待でいっぱいでした。クラスで、色や前のデザインも異なるTシャツを着ると、体育館の中がとてもカラフルになって、それを見ているだけで、とても楽しくなりました。そして、相高祭が始まりました。今回の相高祭のテーマである「花様年華」というのが、私は最初見た時に、全然意味が分かりませんでした。校長先生の花の様に美しい時間というお話を聞いて、この言葉が素敵だなと思い、好きになりました。1日目は、劇で活躍されている先輩方の一生懸命な姿や、楽しそうな姿を見ることができ、とてもよかったです。また、同じ学年の2組、3組の合唱は、ハーモニーがとても綺麗で感動しました。でも、やはり悔しい気持ちもありました。来年は、劇や展示などで最優秀賞が取れるように頑張りたいです。2日目の全体合唱では、大人気で「旅立ちの時」を歌うことができました。こんなに大人気で歌うことは、これから先の人生であまりないことだと思うので、貴重な経験ができて、とても良かったです。3年生のバザーでは、様々な美味しい食べ物を食べることができ、充実した時間を過ごすことができました。友達ともいっぱい写真を撮り、思い出として形に残せたので、とても良かったです。あまりしゃべったことがなかったクラスの友達とも、いっぱい話をする事ができて仲良くなったので、とても嬉しかったです。

相高祭では、2年生の先輩方の楽しい劇や展示、3年生の先輩方のおいしい食べ物がいっぱいのバザーなど、とても楽しい2日間を過ごすことができました。来年は、私も、先輩たちに楽しい文化祭だったと感じてもらえるように、精一杯盛り上げたいです。  
(1組 谷口 来夢)

1年2組



今日の文化祭を終えて、「ああ、高校生になったんだなあ」と思うことが、たくさんありました。合唱でも、中学校では音楽の先生がつきっきりで教えてくれていたのに、高校では、自分達だけで歌を完成させていかなければならないので、とても難しかったです。しかし、リーダーの大高君を中心に皆で力を合わせて優秀賞という、素晴らしい結果を残すことができました。この壁を乗り越えた時に、「高校生になったな」と思いました。1-2の、クラスの団結がとても高まったと思えました。

そして、2年生、3年生もさらにすごいと思います。2年生は、自分たちの力だけで物語を作り、自分達だけで全てを創り出して、1年生にはないものを強く感じました。3年生は、劇よりも難しい、自分たちの力で、売店をプロデュースして、すごいと思いました。さらには、バザーと同時進行でCM作成もしていて、どの学年も、「自主性」が1年生よりずっとずっとあり、すごい力を持っているなと思いました。これからも、体育大会や、球技大会などがあるので、この相高祭で得た団結力で乗り越えていこうと思います。  
(2組 有年 健伍)

私は相高祭を通じて、クラス・学年のつながりがより深くなったと思います。

まず、クラス毎での合唱は、友達の良い所がたくさん見られました。放課後やお昼休みに練習した中で、どんどんクラスがまとまっていくのがすごく嬉しかったです。練習すればするほど、良い部分と同じくらい、直さなければいけないことも見え、意見がぶつかる時もありました。しかし、委員長や伴奏者が中心となり、私達をしっかりまとめてくれたおかげもあり、最優秀賞をもらうことができました。自分たちの頑張り・練習は決して無駄ではなかったと実感できた瞬間でした。

そして、学年での全体合唱。1年生200人が一つになって歌うのは、そう簡単なことではないと思っていました。しかし、1日目の練習から、どのクラスもしっかり声を出して、少し驚きました。指揮者・伴奏者、移動など細かいことが決まり、全員が指揮者の一点を見る瞬間を見たときには、まとまりを肌で感じる事ができ、感動しました。

今年から、ある時期、写真を撮っても良いということで、今まで話したことがなかった友達と関わりをもち、友達の輪を広げることもできました。学年を越えて、相生高校全体が協力し合い、ひとつになれた2日間でした。  
(3組 小谷 果楠)

私は、相生高校に入学してからずっと、大きなイベントの一つである相高祭が楽しみでした。なので、第1学年は合唱する、と聞いたとき、とてもワクワクしていました。それからというもの、自由曲は何という曲になるんだろう、課題曲はしっとりしたもの？明るいもの？どんな曲なんだろう、と、考えていました。もちろん、軽くだったけど、せつかく小学3年生の時から中学3年生の時までピアノ伴奏してきたのだから、今年も伴奏をしたいな、と思っていました。そして、自由曲が、倉木麻衣さんの「渡月橋～君想ふ～」に決まりました。私は最初、この曲を合唱で歌うって、なんか変だなと思い、私自身は、候補の中にあつた GRееееN の曲を歌いたいと思っていました。しかし、私は伴奏をすることになりました。正直に言うと、私の中には、確かに、「ピアノ伴奏をしたい」、「この曲を弾いてクラス一丸となって優勝したい」という思いはありました。その裏で、「せめて一曲は歌いたいけど、これで喉をこわさずにすむ」という、ずるいことも思っていました。でも、最終的に、「2曲とも歌わない分、伴奏を弾くのだからしっかりとその役目を全うしよう」、「クラス一丸となって楽しく優勝を勝ち取るには、苦手だけど、前に出てリーダーシップを取ろう」と思えるようになってきたのでよかったです。

予選では、1位通過できてほっとしたものの、相手が2組で、そのハーモニーがとてもきれいなクラスだったので、油断はできませんでした。相高祭での決勝では、いつもより速かったものの、精一杯力を出し切れました。その結果、手に入れることのできた最優秀賞は、最高の宝物です。それから私は、一気にテンションが高くなりました。これを機に、クラスがまた、一段と仲良くなったと思います。合唱練習が始まった日からの半月間は濃かったです。来年はクラスが替わっているけど、相高祭が楽しみです。  
(3組 室本 幸映)

1年3組



相高祭の劇が楽しくて、面白いイメージがあったし、うわさでも聞いていたので、劇を楽しみにしていました。思っていた通り、限られた時間の中で、先輩たちが楽しみながら劇を作っていました。もちろん、見ている方も楽しかったです。相高生は、楽しむ時と頑張る時の、オンとオフの切り替えができると言っていたように、相高祭の時は皆がはじめてハイテンションだけど、普段は部活や勉強に打ち込む先輩の姿が格好良かったです。それに比べると1年生は、まだまだ切り換えも遅いし、物事に熱中する、オンになるスイッチでさえ見つけられていないと思います。勉強に対しても部活に対してもです。オンとオフどころより、オンになれないとオフにもなれないので、まずは何事にも全力で取り組むことを大事にしようと思いました。

1年生は、とくに4組は全体合唱しか出番はなかったのですが、2組・3組を、同じ学年として応援してあげようと思っていました。閉会式の優秀賞発表の瞬間はドキドキしました。どちらも凄かったし、どちらも応援していたからです。相高祭の学級合唱の練習の時は、相高祭の雰囲気がかめなくて、何となく練習してしまったことを後悔しています。4組で賞を目指したかったからです。他のクラスのまとまった歌声を聴くと、悔しかったし、皆でステージに立ちたかったです。何事も全力にならないといけないと、この時でも感じました。

相高祭を終えて、全体を通して感じたことは、何事も全力でやるべし、ということです。時間が過ぎるままで過ごしては、何も得られないという事です。その場の雰囲気に流されないように、やる時は全力でやろうと思います。もう一つは、相高祭を通じてクラスの雰囲気や団結力も、少しずつ良い方向に行っていると思います。今までの学校生活では、先生に頼っている場面が多かったけど、高校では、自分達で曲を決めて、自分達で案を出し合っ、一つのものを作れたので、クラスの団結力も増しました。ここで得た団結力を、少しの事で崩したくないです。

(4組 廣村 英)

今回の相高祭を終えて、まずは、無事に終わって良かったと思いました。初めての相高祭だったので、分からないこともあったけど、すごく楽しめました。

合唱では、僕たち4組は決勝には出れなかったけど、2、3組の歌を聴いて、決勝に合った素晴らしい歌声で、すごいと思いました。そして、僕たちもステージに立った1年生の全体合唱「旅立ちの時」は、全員の気持ちが一つになって、とてもいい歌を、1年生全員で歌うことができました。

1年生は合唱でしたが、1年生以外にも、他学年や文化部などのステージ発表がありました。2年生の舞台劇は、ストーリーがしっかりしていて面白くて、笑いどころが多く、すごく楽しむことができました。また、劇中でやっていたパフォーマンスもすごいと思いました。文化部のステージ発表では、迫力ある演奏で体育館が盛り上がりたりして、普段一緒に生活している友人がステージに出ていて、とても格好良かったです。ステージ発表の他にも、昼休みには3年生が屋台を出していて、どの食べ物もおいしかったです。

来年には、僕たちは劇などをします。それに向けて、すごく参考になりました。そして、相高祭で一番大切な、楽しむ、ということができたので、良かったです。また、色々な人と話すことで、新しい友人ができたり、いいところを見つけたりできたのでよかったです。

相高祭は終わり、来週から授業が始まり、普段の生活に戻ります。相高祭が終わったからといって気を抜かず、むしろ気を引き締めて学校生活、部活に励んでいきたいと思いました。

(4組 古田 芽空)



ラストは1年5組。皆で必死に指揮者を支えようとしていた姿は、大変ほほえましかったです。

どのクラスも、一生懸命でした。この先、活動の取り掛かり・継続を課題に、次の機会です。



トップバッターは1年1組。今回の合唱コンクールのレベルを上げた立役者でもあります。

楽しそうだった1年4組。周囲を巻き込み、楽しそうでした。課題曲は一番の出来でした。

合唱コンクール予選  
他の3クラスの様子もご覧ください

総合的な学習も「相生市への提言」をめざし、グループとして動き始めました。今は、10月のポスター発表に向けての資料収集活動からです。



6月22日金曜日。第3回さわやか挨拶運動に2組の20名が参加しました。この日は、PTAの方も、登校時間帯に生徒の通学路に立って下さいました。また、兵庫県数学教育研究大会の高校の部が、本校にて行われたため、大変忙しい一日でしたが、爽やかな笑顔で朝の時間を共有できました。下の写真は、相生駅南にできたインフォメーション・ラウンジです。電車待ちの間に、本校生も積極的に利用してもらえればと思います。忙中閑ならぬ「忙中ちよつと空気抜き」で、話に夢中になつてくるとはいいですね。



第3回さわやか挨拶運動  
今回は1年2組の20名でした

